日本財団ボランティアセンター

THE NIPPON FOUNDATION VOLUNTEER CENTER

# 活動報告2021

# 日本財団ボランティアセンターの歩み

## 2010

**●日本財団学生ボランティアセンター（Gakuvo）設立**

**●早稲田大学と協定締結**

初めての締結先として、早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンターと、2010年6月にボランティア活動推進のための協力協定を締結。2022年3月31日時点で、全国102大学と協定を締結し、事業を展開。

## 2011

**●東日本大震災チームながぐつプロジェクト始動**

チームながぐつプロジェクトを立ち上げ、2011年4月より学生ボランティアの派遣を開始。2022年現在、復興支援以外にも、農業支援などの活動を継続。

## 2012

**●学生インターン自主企画 にじいろキャンプ実施**

福島県南相馬市の小学生を対象とした保養キャンプを、宮城県栗駒市にて実施。

## 2014

**●Gakuvo Style Fund創立**

ボランティア活動などの社会貢献活動を通して成長し、社会へはばたく人材を育成するため、活動を支援するファンドをGakuvo Style Fundを創設。2019年度まで実施、延べ214団体に資金協力。

## 2015

**●グローバル・リーダーシップ・プログラム 開始**

多様性や異文化コミュニケーションを学ぶと同時に、世界が抱える様々な社会問題について考える機会とするため、インドネシアにてプログラムを実施。2017年度まで9回実施。

## 2016

**●プラチナ未来人財育成塾 協力開始**

プラチナ社会実現に寄与する未来のリーダー育成を目的として、全国から集う中学生が産官学民など社会のあらゆる分野で活躍する方々の講義を受け、社会と自身の未来について考えていく育成塾において、学生チューターが参加者の学習支援を行う取り組みがスタート。

## 2017

**●「学生1万人アンケート」実施**

全国の学生1万人を対象にボランティアに関する意識調査を実施。

## 2020

**●オンライン版チームながぐつプロジェクト福島 開始**

コロナ禍で、現地でのボランティア活動が難しい状況が続く中、このままの現状を変えよう！そんな想いから、お世話になっているいわきの方々とも相談し、学生と現地の方々との繋がりをつくる機会とした。

**●動画「5分でまなぶ 学生災害ボランティア」公開**

災害ボランティアを考えている、また活動するか迷っている学生へ向けた、短編のオリエンテーション動画を制作、公開。

## 2021

**●「災害ボランティア研修入門編」開始**

**●名称を「日本財団ボランティアセンター」に変更**

広島土砂災害 ボランティア派遣

関東・東北豪雨災害 ボランティア派遣

熊本地震災害 ボランティア派遣

豪雨災害(九州・秋田) ボランティア派遣

西日本豪雨災害 ボランティア派遣

令和元年災害 ボランティア派遣

令和2年7月豪雨災害 ボランティア派遣

与論島軽石除去 ボランティア派遣

# 東日本大震災から始まった
# 東北への
# 学生ボランティア派遣のこれまで

2011年4月、学生ボランティア派遣事業チームながぐつプロジェクトを立ち上げ、東日本大震災の被災地のために何かしたいという学生のため交通手段と宿泊先などを確保して、東京から岩手、宮城、福島へ学生を送りだしていきました。
2013年から地震、津波、原発事故、そして風評被害と4重苦を強いられた福島県のいわき市へ学生を送り続け、現状を知り、継続的なつながりの必要性に気づくと共に、行動を起こしていく機会を提供しています。

INTERVIEW

### ～あの日から11年～
### 2021年10月ボランティア参加者

私は今回の参加者のなかで唯一生まれも育ちも福島県なので、放射線の甲状腺検査も受けていて、結果は毎回要観察だったんです。震災から10年が経ちますが、今でも不安です。震災当時の記憶が薄れていくなかで、震災や放射線への考えを見直した学生も多かったのではないかと思います。
オンラインで2019年の台風被害も伺いましたが、現地で対面だから質問できることもあり、実際に色々な経験ができて本当に良かったです。
はじめは、自分だけ現地から1人で参加したので馴染めるか不安もありましたが、1人参加は自分だけではなく、同じ不安をみんな抱えていたことがわかって距離が縮まりましたね。ここでは年齢に関係なくみんなと仲良くできて嬉しいです。

佐藤 真由香さん
東北福祉大学3年 福島県生まれ

2021年度

### オンラインを経て624日ぶりの現地ボランティア

新型コロナウイルス感染症の流行が拡大した2020年3月以降、いわき市への訪問は断念せざるを得ない状況になりました。
2020年10月からはオンライン上で現地の方々と全国の学生が交流を続けてきましたが、2021年10月29日に緊急事態宣言などが解除されたタイミングで、徹底した感染対策のもと、いわき市で活動を行いました。

参加者　18名　各地から集まった大学生
日　　程　2021年10月29日~10月31日　2泊3日
活動内容　NPOいわきオリーブプロジェクトの農園にて収穫・選別作業
長源寺での講話（東日本大震災や令和元年東日本台風の被害と現状）

| 学生ボランティア派遣先 | 岩手県 | 大船渡市 | 釜石市 | 宮城県 | 石巻市 | 気仙沼市 | 福島県 | 会津若松市 | いわき市 | 郡山市 | 参加者数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 上閉伊郡大槌町 | 遠野市 | 陸前高田市 | 東松島市 | 亘理郡山元町 | 亘理町 | 相馬郡新地町 | 双葉郡川内村 | 南相馬市 | オンラインいわき | 延べ 12,160人 |

# 頻発する災害での
# 学生ボランティア派遣のこれまで

普段は他人事と感じてしまいがちな社会、世界で起きていることを自分事として捉え、行動を起こしていくための機会を提供するチームながぐつプロジェクト。チームながぐつプロジェクト緊急災害支援では、各地で発生する大規模な自然災害等で助力が必要な地域において、現地の災害ボランティアセンターや支援に入っているNPO、近隣の大学などと協力し、学生ボランティアの派遣を実施してきました。2011年から現在まで、東日本大震災の被災地も含め、35箇所以上の地域で災害支援活動を行いました。

INTERVIEW

### ～学生たちが感じたこと～
### 軽石除去ボランティア in 与論島

以前からさまざまなことに挑戦したい思いがあり、今回はゼミの先生から勧められて参加しました。これまでにも福祉施設訪問などの経験はありましたが、体を動かす本格的なボランティアは初参加。高校時代は空手部で活躍したそうですが、軽石の詰まった袋は重く、「なかなかたいへんですね」と苦笑。それでも、「参加してよかったです。得るものがたくさんありました」最近はアルバイトも忙しく、「無償のボランティア活動を、今の私はどう感じるだろうと思いながら参加しましたが、チームで協力して行う活動は楽しいし、島の人たちからの感謝の気持ちもすごく伝わってきて、うれしく思います。ボランティアって、Win・Winの活動なんだと強く感じています」朝のゴミ拾い活動にも参加して島の人たちとも触れ合えたことで、「離島の印象も変わりました。将来、観光業界で働きたいと思っていますが、景観や環境を守ることに対して、あらためて考えるきっかけになったし、視野も広がりました」。

長岐 英恵さん
東北福祉大学3年 秋田県生まれ

2021年度

### キレイなビーチと島民の生活を取り戻す
### 与論島での軽石除去活動

豊かな自然と、エメラルドグリーンの美しい海。しかし、海底火山の噴火により、島には大量の軽石が漂着するようになりました。与論島のビーチは広く軽石に覆われ、美しい景観が損なわれているだけではなく、島の漁業や観光業などにも大きな影響を与えていました。
綺麗なビーチを取り戻すべく、島では20名の学生がともに汗を流しました。

参加者　20名　各地から集まった大学生
日　　程　2021年12月15日~12月19日 4泊5日（第1陣）
　　2021年12月19日~12月23日 4泊5日（第2陣）
活動内容　海底火山の噴火により漂着した軽石の除去

| 災害ボランティア派遣先 | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 宮城県 伊具郡丸森町 | 秋田県 大仙市 | 福島県 いわき市 | 千葉県 長生郡長柄町 | 千葉県 安房郡鋸南町 | 山梨県 甲府市 | 茨城県 常総市 | 茨城県 久慈郡大子町 | 栃木県 鹿沼市 | 岡山県 倉敷市 | 広島県 広島市 | 広島県 呉市 |
| 広島県 竹原市 | 広島県 三原市 | 福岡県 朝倉市 | 佐賀県 杵島郡大町町 | 熊本県 人吉市 | 熊本県 阿蘇郡西原村 | 熊本県 阿蘇郡南阿蘇村 | 熊本県 上益城郡益城町 | 熊本県 球磨郡球磨村 | 鹿児島県 大島郡与論町 | フィリピン共和国 パラワン州クリオン島 | |

参加者数
延べ 2,344人

# 学生の力を社会のために
# 全国の大学との連携事業

了徳寺大学　東京都西多摩郡での里山保全活動

日本財団ボランティアセンターでは、全国の大学と「ボランティア活動推進協定」を締結し、講座や活動を展開しています。
ボランティア活動や社会貢献活動について学ぶ講座、大学の所在地を拠点とした活動、被災地ボランティア活動などを正課・課外の活動を組み合わせ、協定大学の学生にボランティア活動のきっかけを提供しています。

**中央大学**

## 中央大学ボランティアセンター　岡山県倉敷市での活動

**2018年の西日本豪雨災害後、中央大学ボランティアセンターでは公認学生団体「ふらっと真備」が結成され、年に3-4回の頻度で現地を訪れ、仮設住宅を中心に活動を続けてきました。当センターからは、主に旅費や、オンライン活動の際の接続機器使用料の補助をして、継続的な活動の支援をしています。**

［コメント］中央大学ボランティアセンター公認団体「ふらっと真備」は、2020年9月と11月に、オンライン機器を利用しこれまでの活動で関わってきた方々と交流の時間をもちました新型コロナウイルス感染拡大のため、現地に赴いての直接の交流ができない中、団体と活動地域の関係性を継続するために企画をしました。2回目に実施した交流会では、手先を使った体操、ハンカチアート、折り紙などを、画面越しにコミュニケーションをとりながら行ない、良い雰囲気の交流会となりました。
2021年12月には、約2年ぶりに現地に行くことができました。現地での活動ができていなかった2年の間に、状況も変わってきており、現状の理解と今後の活動へのヒントとするためのヒアリングや、写真洗浄を実施しました。（中央大学 阿佐美有沙さん）

**和歌山大学**

2021年度

## 和歌山大学災害ボランティアステーション「むすぼら」

**和歌山大学災害ボランティアセンター「むすぼら」は2021年3月11日、「防災・減災・復興の担い手作り」を目的に発足し、有事だけでなく平常時から地域と連携し、災害に強い人材の育成に取り組んでいます。2021年10月3日に水道管橋が崩落し、和歌山市内では断水状態が続いていた中、むすぼらでは給水支援ボランティアの実施を決定しました。
大学からの連絡を受け、当センターが東京で購入した給水タンクを送り、自身で水をくみにいけない高齢者世帯を回り、給水活動を実施しました。**

2021年度

## ネットワーク勉強会

**協定大学の教職員・学生スタッフを対象に、各地の大学の取り組みを学ぶため、勉強会を実施しました。全国、それぞれの地域で特徴的な活動をしている多数の大学と協定を締結していることから、互いに学び合い、当センターをプラットフォームとして、大学同士のつながりを構築することが目的です。**

**第1回**

日　時　2021年11月11日（木）
テーマ　コロナ禍での対面活動
事例発表　開澤 裕美 さん（中央大学ボランティアセンター）、髙野 葉朗（日本財団ボランティアセンター）

**第2回**

日　時　2022年3月7日（月）
テーマ　大学の所在地にて災害が発生した際、大学ボランティアセンターはどうあるべきか、大学のボランティアセンターに何を求めるか
登壇者　尾形 孝輔 さん（石巻専修大学）、栗田 暢之 さん（特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク）、佐藤 亜希 さん（青山学院大学ボランティアセンター）、髙野 葉朗（日本財団ボランティアセンター）

愛知淑徳大学　岐阜県大野郡白川村での外国にルーツのあるこども対象のキャンプ

立教大学　インドネシアでのこども対象の環境学習（サービスラーニングのフィールドワーク）

聖心女子大学　岩手県陸前高田市での「うごく七夕まつり」開催のお手伝い

## 協力協定締結校

（2022年3月31日現在）
□が2021年度新規協定締結校

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 北海道教育大学函館校 | 岩手大学 | 東北大学 | 東北福祉大学 | 東日本国際大学 | 弘前医療福祉大学 | 弘前医療福祉大学短期大学部 | 青山学院大学 | 亜細亜大学 | 茨城大学 | お茶の水大学 | 嘉悦大学 |
| | | 神田外語大学 | 埼玉工業大学 | 順天堂大学 | 聖学院大学 | 成蹊大学 | 星槎大学 | 聖心女子大学 | 大正大学 | 高崎健康福祉大学 | 千葉大学 | 中央大学 | 津田塾大学 |
| 東京外国語大学 | 東京海洋大学 | 東洋大学 | 法政大学 | 松本大学 | 明治学院大学 | 明治大学 | 立教大学 | 立正大学 | 了徳寺大学 | 麗澤大学 | 早稲田大学 | 愛知淑徳大学 | 常葉大学 |
| 浜松学院大学 | 新潟青陵大学 | 新潟青陵大学短期大学部 | 追手門学院大学 | 大阪大学 | 大阪府立大学 | 関西国際大学 | 京都産業大学 | 京都大学 | 摂南大学 | 和歌山大学 | 一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸（40校） | | 岡山大学 |
| 鳥取大学 | 公立鳥取環境大学 | 広島修道大学 | 福山市立大学 | 徳島文理大学 | 北九州市立大学 | 九州国際大学 | 熊本学園大学 | 熊本大学 | 長崎大学 | 日本文理大学 | 東部地域大学連携（福岡県内、3校） | 協定校 | 102校 |

# 社会課題解決のための
# セミナー・シンポジウム

ボランティア活動が取り組む社会課題、個人のスキルアップ、チームマネジメントなどの様々な切り口で、全国の学生が大学の地域・専門を超えて学びあう場を2019年度までは対面式で、2020年度からはオンラインにて開催しています。
コンテスト、講演会、ワークショップなど形式も多様に、活動の中で直面する悩みを共有したり、実践の中での切磋琢磨を通して、学生たちのネットワークも広がっていきました。

2021年度

## オンラインセミナー
## 学生の”うち”だからできるSDGs ～暮らし方と働き方～

学生自身が取り組むことができるSDGsとは何なのか、暮らしへの取り入れ方をどうするかなど、現役学生であり活動も展開するゲストが参加者からのチャットでの質問にも答えながら、考えました。

GUEST

参加者　175名　全国各地の大学生

日　　程　2021年12月18日　19時～21時

ゲスト　能條 桃子 さん（慶應義塾大学院修士1年／一般社団法人NO YOUTH NO JAPAN代表理事）
須藤 あまね さん（聖心女子大学3年／地方創生SDGsユースアンバサダー）

2021年度

## V-1 社会問題を考え発信する文章塾

PRカコンテスト V-1は、2010年度～2017年度はボランティア団体の活動を様々なテーマで伝える映像を募り、2018年度からは文章を募りました。2021年度は、受講生が現役新聞記者が講義する半年間のオンライン連続講座を受けつつ、社会課題とそれに取り組む人や団体への取材も行い、各々が設定した社会課題について考えを深め、発信について実践しました。

GUEST

参加者　17名

スケジュール　第0回 2021年6月16日 / 第1回 6月24日 / 第2回 7月9日 /
第3回 9月28日 / 第4回 10月27日 / 第5回 / 11月25日 / 第6回 12月16日

講　　師　大泉 大介 さん（河北新報社）

受賞作品　<グランプリ>
中野 ちさと さん（上智大学2年）「居場所見出す ここはあなたのための家」
<優秀賞>
柏 夏紀 さん（上智大学3年）「食品ロス削減へ 地元から第一歩」
山内 彩愛 さん（横浜国立大学）「『楽しく暮らそう』地域をつなぐ活動」

## もしもに備えるはじめの一歩
## 災害ボランティア研修～入門編

頻発する災害に対して、災害ボランティアへの参加の仕方、装備と持ち物、事前の準備、災害ボランティア当日の流れなど具体的で実践的な内容をグループワークも交えて学びました。

開催実績　2021年11月11日 / 11月29日 / 12月3日 / 12月22日
2022年1月8日 / 2月9日 / 2月24日 / 3月8日 / 3月26日

| セミナーで取り上げたテーマや内容 | スキルアップトレーニング | | より伝わる作文のための文章力向上 | レポート執筆の極意 | 聞き手の共感を呼ぶプレゼン | 交流と対話 | | ボランティアお悩み相談会 | コロナ禍での学生災害ボラ | 学生の貧困、社会に根付く差別 | ボランティア活動の『無償性』 | 地域と関わり成長する |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 伝わる動画づくりの第一歩 | オンラインツール活用術 | イベント集客をホンキで考える | マネジメント実習 | ソーシャル企画づくりのコツ | 活動経験とキャリアデザインを繋ぐ | オンラインのあたたかい場づくり | 対話の場のチカラ | トークフォークダンス | 私たちのレインボーな世界 | 性差(ジェンダー)の日本史 | 女子制服のスラックス |

# 1年間を日本財団ボラセンの中で学生インターン

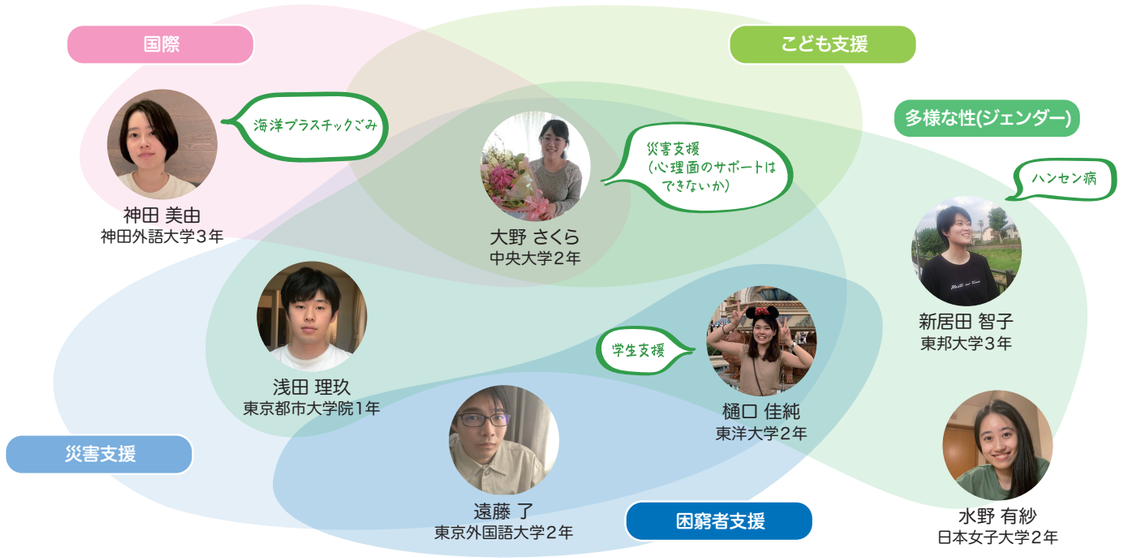
日本財団ボランティアセンターでは、センター事業の企画・運営補助を担うとともに、学生自身が主体性を持ってプログラムの企画と運営を行うプログラムを2010年度から実施しています。4月から翌年3月までの1年間、社会課題がどうすれば解決するのか、学生ボランティアをもっと拡げるためにはどうすればいいのかを考えて試行錯誤を繰り返しました。

## 2021年度

### インターン7名の悪戦苦闘

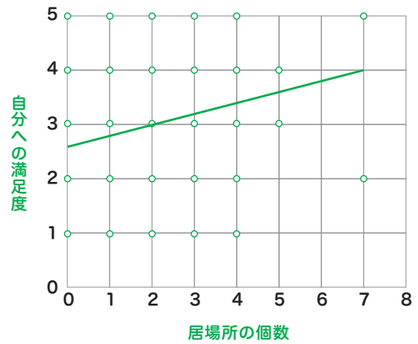
収まらないコロナ禍の中、オンラインでのミーティングを重ねて、企画を形にしてきました。2018年度から開始したWebメディアacare(アクア)も、感染拡大時期に、学生時代の大半を費やしている現役の学生たちに思いを馳せ、約1年に渡って調査やイベント企画といった方法で向き合ってきました。

### 2021年度インターン生 興味があること




## 2021年度

2021年度のインターンは、大学2、3年生が中心となりました。コロナ禍で学生生活を送る彼ら、約一年かけて考えたテーマは「学生の暗黒期」。誰しも経験する、「人生の目的が見つからない、何も思い通りにならず、自己嫌悪になる」そんな時期を「暗黒期」と名付けて、実態を調査し、暗黒期を乗り越えて前向きに歩むには何が必要かを考えました。



**<アンケート調査概要>**

調査期間　2021年12月15日～23日
調査方法　インターネット調査
有効回答数　大学生479名
監　　修　山縣 芽生 さん (大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程2年)

**<座談会概要>**

実 施 日　2022年2月8日
場　　所　オンライン
参 加 者　大学生6名

**<イベント概要>**

イベントタイトル　大学生が考えるコロナ禍の生活～暗黒期との付き合い方～
実 施 日　2022年2月17日
場　　所　オンライン
ゲ ス ト　辰野 まどか さん (一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GiFT) ファウンダー／代表理事)

アンケート調査、学生の座談会から見えてきたことは、「サードプレイス」をもつ重要性。サードプレイスとは、家庭や大学以外の居場所のことで、サードプレイスを複数をもっている学生ほど、今の生活全体への満足度や将来への期待、自分自身への満足度が高いということが明らかになりました。この結果を受けてゲストの辰野氏との対談を含むイベントを実施しました。イベントの中で、「暗黒期」はネガティブなことだけではなく、学びの過程に入っていき、活動場所を広げようとしている時であるというトピックも取り上げました。インターンにとっては、調査を重ねることで自分自身について振り返り、また次へのステップについて考える機会となりました。

詳しくは ほ活!

## INTERVIEW

### 卒業生が語るインターンの経験

特によかったのは、「誰かとともに誰かのために」活動する経験ができたことですね。Gakuvoのインターンもボランティアも、別に授業でも就活でもないので絶対にやらないといけないものではないです。それにも関わらず、同じ目的のために集まった学生たちと「ほかの誰かのために」働いた経験は貴重で、他を探しても実はあまりないのではないかと思います。仲間と膝をつき合せてああでもない、こうでもないといいながら企画した経験で得たものは多く、社会人になった現在でも生きていると思います。

**遠藤 亜純さん**
法政大学卒 Gakuvo2016年度インターン
独立行政法人 国際協力機構（JICA）勤務

| インターン所属大学 | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 青山学院大学 | 跡見学園女子大学 | 大妻女子大学 | 学習院大学 | 神奈川大学 | 神田外語大学 | 共立女子大学 | 国士舘大学 | 駒澤大学 | 埼玉大学 | 産業能率大学 | 実践女子大学 | 首都大学東京 |
| 昭和女子大学 | 聖学院大学 | 成蹊大学 | 聖心女子大学 | 創価大学 | 玉川大学 | 千葉工業大学 | 千葉大学 | 中央大学 | 東海大学 | 東京都市大学院 | 東京外国語大学 | 東京家政大学 | 東京経済大学 | 東京福祉大学 | 東京薬科大学 |
| 東京理科大学 | 東邦大学 | 東洋大学 | 獨協大学 | 日本女子大学 | 日本大学 | 法政大学 | 明治大学 | 明治学院大学 | 目白大学 | 横浜市立大学 | 立教大学 | 早稲田大学 | 修了生 | 延べ 91名 | |

# 日本財団ボラセンこれからの展開

vision

## 私たちは、日本に
## 新しいボランティアカルチャーをつくります。

ボランティア活動は、わたしたち自身と、わたしたちの未来の、あたらしい関係を紡ぐ活動です。それは、時間や経験を提供するという奉仕行為だけにとどまりません。あたらしい仲間に出会える機会であり、あたらしい価値観に触れる時間であり、思いも寄らない好奇心に気づく瞬間であり、自分の可能性を見つけるきっかけになります。日本財団ボランティアセンターは、ボランティア活動の機会マッチングや、ボランティア仲間とのコミュニティづくりなどを通じて、日本のボランティアカルチャーをつくっていきます。

### 団体概要

日本財団ボランティアセンター
THE NIPPON FOUNDATION VOLUNTEER CENTER

日本財団ボランティアセンターは、2010年よりNPO法人として設立し、学生のボランティア活動を支援してきました。以降、2015年に一般財団法人へ、2017年に公益財団法人へ移行。2022年「日本財団ボランティアセンター」へと名称変更し、学生だけではない幅広い世代へと対象を拡大し、事業を実施しています。

日本財団ボランティアセンターは、次世代を担う人材を育成することを目的とし、2010年より、学生のボランティア活動を支援してきました。本年4月からは、学生だけでなく、幅広い世代に対象を拡大することで、多様な方々との交流を育み、ボランティア活動をより一層、活性化させていきます。ボランティアプラットフォーム「ぼ活！」を通じて、より充実した個人のライフスタイルを広げ、より良い社会を目指します。

ぼ活！

### スポーツ大会やビーチクリーン、農業など さまざまなボランティア情報を紹介！

「ぼ活！」には、大規模なスポーツ大会や、海岸でのビーチクリーン活動、東北地方での農業支援など、さまざまなボランティア情報が掲載されていて、自分に合ったボランティアに出会えます。また、AI（人工知能）が、ひとりひとりの興味や関心にあったボランティア活動をすすめる機能も搭載される予定です。

### 英語や手話、スポーツなど、活動現場や日常で役立つセミナーも開催！

「ぼ活！」では、外国語や手話、スポーツなど、多様な分野のセミナーによる学びの場を提供しています。興味のある分野について学び、豊かな知識や技術を身に付けることで、幅広いボランティア活動ができるようになります。また、活動を通しての気づきも深いものになります。

### はじめての方からエキスパートまで 災害ボランティア研修を展開！

「ぼ活！」では、災害が起こった時のボランティア参加方法・準備・当日の流れなどを学ぶ入門的な研修から、現場で活動するためのスキルを磨くエキスパート編、コーディネーター向けのケーススタディまで、具体的で実践的な学びの場を提供しています。

日本財団ボラセン
THE NIPPON FOUNDATION
VOLUNTEER CENTER

**公益財団法人日本財団ボランティアセンター**

代表者　会長　小宮山 宏
所在地　〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-11-2 日本財団第二ビル

＜連絡先＞
TEL　03-6206-1529
E-mail　info@volacen.jp